

# 2013年の生活を予測する

## ～今年のテーマは「総子化」

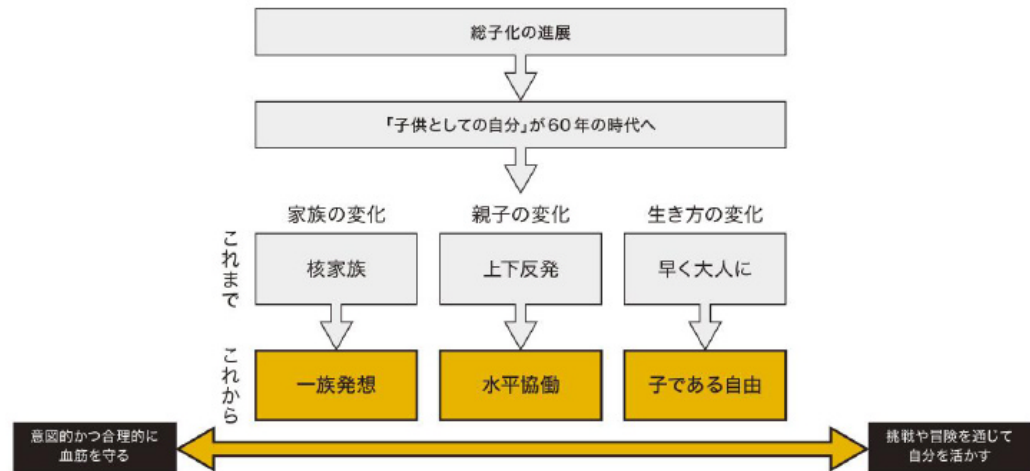
新たな年の始まりを迎え、本年はどのような年になるか。昨年11月に博報堂生活総合研究所(生活総研)は翌年以降の生活者の動向予測をプレスリリースした。この中で生活総研が2013年に向けて提言するテーマは「総子化」。2013年最初となる今号は、2013年の生活動向の予測を紹介する。

### 「総子化」とは？

「総子化」とは何か。進展する少子高齢化などによって親が存命する人の割合が上昇、今や「子供としての自分」をもつ大人が社会の大半を占めている実態から導き出されたテーマだ。生活総研のデータによれば、総人口に占める親が存命する成人の割合は1950年に29.0%に留まっていたが、2000年に入り5割を超えた後も一貫して増加。また親が存命する「子供」の平均年齢も上昇すると共に、親子が共存する年数は60年に達する。そして将来もこの傾向は強まっていくと生活総研は指摘する。

### 家族・親子の関係や生き方に変化

生活総研はこの「総子化」に伴い家族や親子の関係や生き方に3つの変化が起きると分析(右図)する。すなわち核家族が再び融合し一族というチーム力で困難を乗り越える発想が強まる



長期化する親子の時間によって、反発する上下関係ではなく、親子が互いに年を重ねて来た大人として水平協働する関係に変化。身軽な子供としての立場を生かして、積極的な挑戦や冒険をする個人が増加する という点だ。

### 「総子化時代」のマーケティングチャンス

生活総研は上記の変化の中に2013年からのマーケティングのチャンスを描く。第一に「子供であること」の積極的な側面から発想した新しいターゲット設定や消費行動が創りだされるとする。具体的には親子で共に学習や起業をするなど協働が発生、定年後の社会活動も活発化することなどから創りだされるものだ。次に親族のつながりを支援する新しいライフスタイルの実現や生活インフラの整備に向けた動きだ。例えば2.5世帯や3世帯、さらに親族も併せた多世帯が居住するための機能を備えた製品の開発や、自分達の家だけでなくそれぞれの親の家も育児の現場となる「ノマド育児」に備えた育児講座や、育児の様子を共有化するサービスなどの動きが出てくることを予測する。



## 「棚割り」とは？

今回は店舗の商品が並んでいる棚の並び（棚割り）についての豆知識です。チェーン展開している店舗においては、「定番」と呼ばれる変化の無い固定された棚には、A店でもB店でも同じ並びで商品が陳列されているのが分かると思います。同じ棚並び（棚割り）にする事で、チェーン展開しているお店の品揃えが同じになり、売場管理をする上で大変重要になっています。

それでは、棚割り陳列の基本を簡単に説明します。

- (1) 商品に注目させる (2) 商品に関心を持たせる (3) 欲求を起こさせる
- (4) 商品を購入する事が得である事を確信させる (5) 購買行動を起こさせる

つまりは見易く、触れ易く、選び易い。そして豊富感があり魅力的であり、効率的であることです。

### 棚割りの作り方の基本

- (1) 床から80cmぐらいまでを、売れ筋商品の大量陳列あるいは子供向け商品のスペースに。
- (2) 床から80～140cmぐらいまでを、売れ筋商品あるいは利益商品のスペースに。このスペースはお客様の目線にあたる一番目立つ場所の為「ゴールデンライン」とも言います。
- (3) 床から140～170cmぐらいまでを、店のイメージ商品あるいは、新商品スペースに

棚割りは、商品の売れ行きやメーカーの新商品を導入するタイミングなどにより変更をしています。この変更をする作業を「シュミレーション」と言い、チェーン展開している小売業では棚ごとに売上げ管理、利益管理をしている所も多く、所定の売上げや利益が達成できない棚は変更の対象になる場合もあります。

また、棚割りにおける小売業の専門用語として、「フェイス」という物があります。これは、棚に並んでいる商品を正面から見た際の並び数の事を言います。同じ商品を3列陳列した場合は「スリーフェイス」という言い方をします。売れている商品やお店側で売りたい商品ほどこのフェイス数は多く取っています。お店に行った時にこれらの事を知っていると新しい発見があるかもしれません。

---

## 年頭に当たって

当社 代表取締役社長 三宅 誠二

新年あけましておめでとうございます。お陰様で今号をもちまして400号を迎えることが出来ました。これもひとえにご愛読頂いております皆様のご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

昨年はロンドン五輪、或いは山中教授のノーベル賞といった明るい話題に加え、主要国で体制の変化、選挙等が行われ政治の年ともいえるものでした。ややかげりがあるものの引き続き世界の中心である米国でオバマ政権が2期目に入ったわけで、そこに主要国が新しい顔ぶれでそろい、これから協調と競争の新たな4年間が始まる、まさにスタートラインにたったところということだと思います。

日本農業は引き続き厳しい環境下にあり、そこにTPP等の難しい問題も目の前に控えてはありますが、過去数年、各地で見られるようになった農業の新たな息吹ともいべき動きが、この2013年にはより顕在化してくるだろうと、一方で強く予感しております。耕作放棄地の拡大に歯止めがかかりつつある中で、よりプロ意識をもった生産者が増え始めていること、これらの方々が今後の日本農業を支えていく大きな柱となっていくことを期待してやまないところです。

私も三菱商事アグリサービスも微力ではありますが、肥料等の販売を通じてこのような日本農業の発展に少しでも貢献できたらと考えておりますので本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。改めまして、2013年が皆様にとりまして素晴らしい年をなりますよう、心よりお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

---

新年明けましておめでとうございます。9連休の方もいらしたと思いますが、皆さん思い思いのお正月を過ごされましたでしょうか。さて、今年も皆様にあらゆる視点から集めた情報をお届けすべく、編集部一同努めて参ります。本年もご愛読下さいます様、どうぞ宜しくお願い申し上げます。目指せ500号！

編集事務局：小田、助川